

滋賀県立近代美術館協議会(第40回)概要

1 開催日時：平成27年(2015年)3月19日(水)午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所：滋賀県立近代美術館 会議室

3 出席者：滋賀県立近代美術館協議会委員 11名

安達みのり委員 上野真知子委員 神田浩委員 北村恵美子委員

澤野二郎委員 千速敏男委員 辻村琴美委員 長野寿子委員

西谷真由美委員 前川秀治委員 柳原正樹委員

関係者

滋賀県総合政策部 桂田管理監

文化振興課

新生美術館整備室 馬淵室長 木村主幹 笹山主幹

文化施設担当 中尾副主幹

滋賀県立近代美術館事務局

秋山館長 竹内副館長 占部学芸課長 山本総務課長

4 会議次第

(1) 滋賀県立近代美術館 秋山館長 あいさつ

(2) 議 事

- ① 平成26年度事業実績について
- ② 平成27年度事業計画(案)について
- ③ 新生美術館の整備状況について
- ④ その他

5 概要

(2) 議 事

① 平成26年度事業実績について

【委員】

○お出かけミュージアム、ファブリカ村へ行った。

【委員】

【委員】

○ミニギャラリーの使用が少ないのは

開館30周年記念事業の展開について

【委員】

○30周年記念行事はとても楽しかった。手塚治虫展も行列ができて、おばあちゃんが孫に説明しているのが印象的だった。

○公園内のフラッグも今までなかったことがやれてよかった。

○企業の社員等をターゲットにしたPRをもっとやったらどうか。今後スピーカーになっていきたい。

【委員】

○記念式典に来て今まで見たことのない美術館の光景だった。子どもたちがたくさんいてエネルギーな世界だった。この一日の中に一般の方々と美術館の接点を見ることができた。子どもとの接点を大事にしていることが、みんなが美術館に足が向くことに繋がる。

【委員】

○昨今、美術離れが進んでいるというが、アートの範疇が広がっているのも確か。最初の一步は踏み込みやすくなっているのでは、いかに普及活動を進めるかが大事である。

【委員】

○「たいけんびじゅつかん」にはよくお世話になった。美術離れの話があったが、若い世代は親の影響が大きい。
○笹山展での「10トン粘土で遊ぶ」には参加したが美術館でこのようなことができることがうれしかった。大人も子どもも生き生きしていた。

【委員】

○美術が好きなのは、情報を探してでも行く。美術館側はいろいろな人に楽しい場所と思ってもらえるように、敷居を低くしてアピールすることが大事である。素晴らしい企画をたくさんされている、間違っていないと思う。何が足りないかと考えると、宣伝だと思う。フラッグは、公園に遊びに来た人にも、美術館を知ってもらうためには良いと思う。どうやったら人が集まるのか。実際に、人を集めている実績のある人から聞いたり、情報を集めたり、別の視点から見たらもっと人が来ると思う。

【委員】

○美術館と文化公園で管轄が違うのでうまくいかないと依然聞いていたがフラッグは一步前進した。
○今後は、バス停を近くにしてほしい。アクセスの遠さ、アプローチの長さはこの美術館の課題である。

【委員】

○交通は難しいが、近くまで来られたらずいぶん違うと思う。行ってみたいレストランがあるなど、展覧会以外の目的でも気軽に来れるような美術館になれるよう考えていかなければならない。
○実際に割引券を利用してどれぐらいの方が来られているのか。

【委員】

○東の美術館にあって、西にないものは図書室。首都圏ではアトライブラリー・コンソーシアムの活動がめざましい。隣の県立図書館とうまく連動し、アトライブラリーの観点から進んだ館になることを期待している。

【事務局】

○割引券の実績だが、初めから美術館へ行きたいと考えている方は前売りを買っている。美術

館へ行くきっかけとなったらと思いい発行している。手塚、遊亀展を合わせて300名位の利用者がいる。裏面でアンケートをとっているが、割引券がきっかけになった方は利用者の半分位。

交通アクセスについては、利用者からの声として不便なのは理解している。今までも検討したが、公園内でもありできていない。交通アクセスは新生美術館の最大のテーマである。レストラン・カフェも計画の中に入っている。

【委員】

- 若い人が手に取りやすいところにチラシを置くといい、今まで置いていたところだけでなく、置いてなかったところへの配置を考えていってはどうかと思う。
- 企画自体も大学生を使うとか若い人に機会を与えることが大事、人が欲しているものを分析して見せていくことが必要だと思った。

② 新生美術館の検討状況について

【委員】

- 近代美術、仏教美術、アールブリュットプラス図書館、一日遊んで文化・芸術が楽しめるようなものにしていきたい。

【委員】

- 他府県から来たからこそ思うんだけど、素晴らしいものがたくさんある。新しいものも、古いものも同時に見せることができる。わくわくする。とりあえず館の中までは入って子どもたちが休める場所がたくさんあることによって、美術館が敷居の高いところではないという感覚が、後に大人になってリピーターにつながる。

【会長】

- 目標来館者数30万人だが、どのようにとらえるかが問題である。カウント数字の明快な指針を持つ必要がある。

【委員】

- 青森県立美術館では開館イベントで盛り上がっていた。街に出て例えばイオンモールとかで美術館が新しくなることをPRする場を設けることも必要。

【委員】

- 車の時代、場所的に高速のインターも近いので旅行者のバス駐車スペースを確保する必要がある。
- 国体もあるので、美術館の予算確保をお願いする。

【委員】

- 多くの県民・団体の声を聞いていただいてありがたいが、びわ湖ホールとはお金のかけ方が違い過ぎると思う。今後も情報が欲しいし声も聞いてほしい。
- 県展の開催を2期に分けなくてもできるように、展示スペース（壁面アップ）の確保もお願いしたい。

④ その他

【事務局】

○近代美術館協議会収蔵品収集審査部会の説明

- ・ 条例第13条で専門の事項を調査する専門委員を置くことができる。
- ・ 条例第15条で専門事項を審議する部会を設置することができる。
- ・ 部会として、収蔵品収集審査部会を設置している。

設置要綱で、館の収集方針に合っているかどうかを専門家の方に審議してもらっている。

- ・ 部会の組織として、協議会委員と専門委員で構成されている。

部会の専門委員は、協議会委員の任期の間調査審議をすることになっているので、今回、2年間の期間中、部会の委員と専門委員を条例第15条第2項に基づき会長に指名いただきたい。

○前回の部会の報告を、前回部会長を兼ねていただいていた会長より報告をお願いしたい。

【会長】

○専門委員5名と私、柳原が加わって部会の会議を行うこととする。

○6月10日に部会を開催し、小倉遊亀さんの「盛られた花」の購入を決定させていただいた。